

中学年 3 組 道徳学習指導案

授業日 平成26年 6 月19日 (木) 3 校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 劔 仁美

会場 中学年 3 組教室

- 1 主題名 「相手のことを考えて」 2 - (3)
資料名 絵はがきと切手

2 本主題の価値

本主題は、学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年の内容 2 - (3) に準拠して設定したものである。

2 - (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う

中学年の子どもは、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまで以上に盛んになる。一方で、自分の利害に基づく行動から衝突が強くなることもある。子どもは、「友達とは仲良くしなければならない」「自分勝手な行動をしてはならない」と、それが正しいことと理解はしているものの、実際の生活場面では自分本位な行動をとってしまうことがある。実際の生活場面では、自分本位な行動をとってしまった後に、ふと自分の行動を考えたとき、「どうしてあんなことをしてしまったのだろう」とその時の自分とその場の状況、そこに居た相手のことを考えることはできる。しかし、子ども自身が置かれている状況の中で、自分を見つめ、状況や周りのことを含めて、とるべき行動を考えることは難しい。

そこで、本時では「絵はがきと切手」(「みんなのどうとく」(学研)) を資料として取り上げる。

絵はがきと切手は、主に次の 2 つの場面で構成されている。

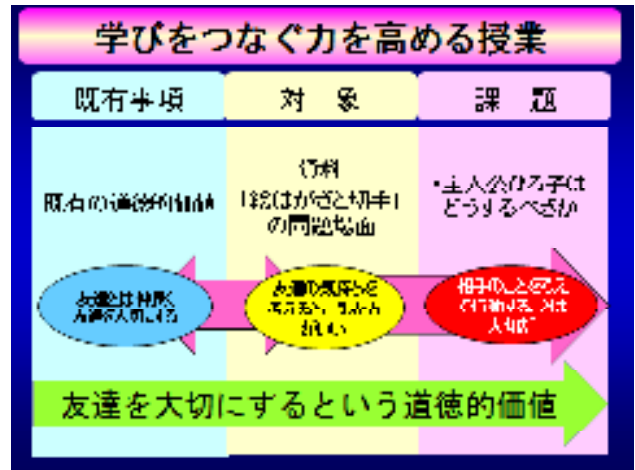
- ① 主人公ひろ子に、転校した友達の正子からの絵はがきが届き、ひろ子は、それをもって嬉しくなる。しかし、友達正子の絵はがきは、切手代が 70 円不足しているという事実を知り、主人公ひろ子は、正子の気持ちを考え、料金が不足していたことを伝えるべきか、伝えないべきかと迷う。
- ② 主人公ひろ子は、友達正子に絵はがきの返事を書き、そこで 70 円不足していた事実を伝えることに決める。

子どもは、友達とはがきや手紙をやりとりした経験から、主人公ひろ子に自分を置き換えて、自分だったらどうするだろうかと考えていくことができる。しかし、子どもは伝えるべきか伝えない方がよいかと、それぞれの考え方にずれを感じ、どうすることがよいことなのかと考える。この資料を通して、子どもは自分本位という考えではなく友達の気持ちや立場を考慮するということを疑似体験することができる。友達の気持ちや立場を考慮、相手のことを考えて行動することは大切だという道徳的価値を自覚することができる資料である。

3 本主題で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

本主題で学びをつなぐ力を高めた姿とは、自分とのかかわりで**道徳的価値の自覚を深める子ども**である。具体的には、「同じように私も迷ったよ。だって、友達だと分かっていると言いにくいこともあるよね。でも、正子のためを思えば、やっぱり伝えてあげた方がいいかもしれないね」「伝えた方がいいのか、伝えない方がいいのか、なかなか決心がつかないよ。だって、正子のためなら伝えてあげた方がいいと分かっているでも実際伝えるとなると言いづらいもの。でも、正子と友達でいるには隠し事をしないで伝えた方がいいのかも知れないね」などと、友達とは仲良くする、友達を大切にするという既存の道徳的価値と、相手のことを考えて行為を決めることの大切さに触れる言葉で、主人公ひろ子にかける言葉を書いている姿である。

目指す子どもにするために、まず、資料場面の疑似体験をさせる。子どもは、場面を実際に体験することで「こう思うな」という自分の気持ちをもつ。次に、資料の問題場面を提示し、主人公の取るべき行為とその理由を考えさせる。その上で、友達の考えと交流させる。子どもは、「確かにそう思う」「友達が言っていることは違う」など、関係付けるすべを用いて、既有の道徳的価値と相手のことを思って行為を決めることは大切だという気持ちをつないで考える。このような子どもに、資料の解決場面を提示し、「主人公にどんな言葉をかけてあげるか」と問い、自分の考えを書かせる。子どもは、主人公が取った行為を基に、既有の道徳的価値と主人公の気持ちを考えることで、「相手のことを考えて行動することが大切だ」という道徳的価値を強化させ、自分とのかかわりで**道徳的価値の自覚を深める**ことができる。



4 指導計画

単元カード参照

5 指導の構想

子どもは、「友達を大切にする」「友達とは仲良くするべきだ」などの既有の道徳的価値をそれぞれにもっている。また、年賀状や手紙などを友達とやりとりした生活経験がある。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 1

子どもに、料金が不足している絵はがきを渡し、受け取った側が不足分を支払わなければならない事実を伝える。

資料の場面について、自分だったらと考えていけるようにするための働き掛けである。子どもは、年賀はがきや絵はがきをもらった既有の経験をもっている。しかし、料金が不足していたことを告げるはがきをもらった経験は少ないはずである。このような子どもに、「切手代が70円不足している」というはがきを渡す。はがきを見た子どもは、料金不足を伝える判子が押してあることに気付く。このとき、「はがきを受け取った人が、切手代の不足分を支払わなければならない」という事実を子どもに伝える。子どもは、この事実に驚きや不満を感じ、自分がどう思うかを表出する。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 2

資料①（問題場面）を提示し、主人公はどうするべきか、考えの理由を問う。

個々の道徳的価値に基づいた考えを引き出すための働き掛けである。まず、資料①の問題場面を提示して、資料を読み聞かせ、問題場面の状況をつかませる。次に、問題場面の状況が分かった子どもに、主人公のひろ子はどうするべきか問い、ワークシートに解決方法とその理由を書かせる。子どもは、主人公のひろ子の気持ちで、既有の道徳的価値を基に「料金が不足していることを伝える方がいい」「伝えない方がいい」という解決方法と理由を考えたり、迷ったりする。解決方法とその理由をもった子どもに、「伝えた方がいい」「伝えない方がいい」「迷っている」という解決方法ごとにネームプレートを貼るように指示し、それぞれの考えの理由を問う。子どもは、「伝えたら正子が傷つくかもしれないから、伝えない方がいい」「伝えてあげる方が相手のためになる」「自分が損をするなんておかしいから、伝えた方がいい」など、ひろ子や正子の気持ちに立って考えや理由を述べる。ここでの子どもは、ひろ子、正子、自分などの様々な視

点から解決方法を考えている。このように、子どもが解決方法とその理由について自分の考えがもてた状態を問いをもった姿とする。数人の子どもに理由を発表させた後、「ネームプレートを移動したい人はいますか」と問う。友達が考えた理由と自分の考えた理由を比べて聞き、ネームプレートを動かしたいと考える子どもも出てくる。また、理由を述べる中で「正子のためだとしたら」という正子の気持ちに立って考えている理由が出たら、次の働き掛けを行う。

働き掛け 3

相手（主人公の友達正子）の気持ちに立たせ、取るべき行為を考えさせる。

相手をことを考えて行為を決めることは大切という道徳的価値に気付かせるための働き掛けである。ネームプレートを移動させた子どもに、その理由を問う。子どもは、「正子のためを考えたら、こっちの方がいいと思った。なぜなら、〇〇だから」と理由を述べる。ここから「正子のためだと考えたら、伝えた方がいいのかな、伝えない方がいいのかな」と問う。子どもは、正子の気持ちに立って考え、ネームプレートで立場を表す。ここでの子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、既存の道徳的価値と正子の気持ちを考えることをつないで考え「相手のことを考えて行為を決めることは大切だ」という道徳的価値に気付き始める。自分の考えが決まった子どもに、理由を問い、発表させる。何人かの子どもに発表させ、ネームプレートの移動を確認する。もう移動しなくてよいという状態になったら、次の働き掛けを行う。

働き掛け 4

資料②（解決場面）を提示し、主人公がとった行為について考えさせる。

自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせるための働き掛けである。資料③の解決場面を提示し、主人公ひろ子がとった行為について「伝えると決心したひろ子に、何と言ってあげますか」と問い、考えさせる。子どもは、自分の考えと正子の気持ちを大切に考えることを関わらせて考え、「相手のことを考えて行動することは大切だ」という道徳的価値を自覚して、主人公ひろ子にかける言葉を考える。このようにして、目指す子どもの姿になる。

6 本時の構想

(1) ねらい

関係付けるすべを用いて、主人公ひろ子の気持ちに立って考えることを通して、友達のことを考えて行為を決めることの大切さを自覚することができる。

(2) 主張（展開） 3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- ・ 友達を大切にする。
- ・ 友達とは仲良くしなければいけない。
- ・ 正しいと分かっているけど、実際には行動できないことがある。

このように働き掛けると【働き掛け 1】

○説明「今日のお話はこの絵はがきから始まります。配りますね」

※料金が不足している絵はがきを配付する。

※子どもの気付きを取り上げる。

- ・説明「70円不足しているという判子が押してあるのに気がつきましたね。実はね、この不足している料金は、はがきを受け取った人が支払わなければならないのですよ」

※子どもの気持ちや気付きを取り上げる。

このようになり（C1）

- はがきを見て思ったことや、不足分をはがきを受け取った人が支払うことについて意見を出し合う。
 - ・うわあ。すごい。やった。
 - ・あれ。変だな。不足って書いてあるよ。この判子は何だろう。
 - ・切手代が70円足りなかったのか。
 - ・どういうことかな。誰が払うんだろう。
 - ・えっ、なぜ、もらった人が払わなければいけないの。
 - ・はがきを受け取った人が支払うのはおかしいよ。損しちゃうじゃないか。
 - ・出した人に払ってもらいたいよ。
 - ・はがきをもらえるのは嬉しいけれど、もらった人が支払うのは嫌だな。
 - ・もらった人が料金を払わなければいけないことは、知っているよ。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 説明「はがきをもらった人が料金の不足分を支払うのは変だなと思っているようですね。これからお話を読みます」
 - ※資料①が書かれたプリントを配付する。
 - ※資料①を読み聞かせる。
 - ※子どもの手元にあるはがきには、資料①のはがきの内容が書かれているため、その部分は省いて読み聞かせる。
 - ・発問「ひろ子は、どうするべきでしょうか。考えを書きましょう」
 - ※ワークシートを配付する。
 - ※数人に、取るべき行為を発表させる。
 - ※「伝えた方がいい」「伝えない方がいい」「迷っている」などに、分類しながら板書する。
- 指示「ひろ子はどうするべきだと思いますか。ネームプレートを貼りましょう」
- 発問「ひろ子が、どうするべきか、その理由を書きましょう」
 - ※取るべき行為の理由を発表させる。
- 発問「友達の考えを聞いていて、ネームプレートを動かしたいという人はいますか」

このようになり (C2)

- 問題場面の内容を把握し、主人公の取るべき行為を考え、ワークシートに書く。
 - ・電話で教えてあげる。
 - ・返事の手紙で教えてあげる。
 - ・夏休みに会ったときに教えてあげる。
 - ・せっかくはがきをくれたのに「お金が足りなかったよ」とは、言いづらいから言わない。
 - ・お母さんに相談してみる。
 - ※自分が考える、取るべき行為を発表する。
- ネームプレートを貼る。
- 理由をワークシートに書き、発表する。
 - 〈伝えた方がいい〉
 - ・正子とは友達だから。
 - ・正子のためになるから。
 - ・もらった方が料金を払うなんて、損をしてしまうのはおかしいから。
 - 〈伝えない方がいい〉
 - ・伝えたら正子が傷つくかもしれないから。
 - ・正子が嫌な気持ちになるかもしれないから。
 - ・何となく、言いづらい。

〈迷っている〉

- ・伝えた方がいいのは分かっているけれど、実際には言えない。正子がどう思うかなって思ってしまう。でも…。

○友達の考えと理由を聞いて、自分の考えとその理由を振り返る。

〈伝えない方がいい→伝える方がいい〉

- ・伝えない方がいいと思っていたけれど、伝えた方がいいのかな。ずっと、黙っているわけにもいかないし。友達だしな。伝える方にしよう。移動させよう。
- ・伝えない方がいいと思っていたけれど、本当のことを伝えてあげた方がいいのかもしれないな。伝えないままだと、正子が同じ間違いをするかもしれないもんな。移動させよう。
- ・伝えない方がいいと思っていたけれど、正子のことを考えたら伝えた方がいいのかもしれないな。でも、実際にできるかという、私は言えないな。どうしよう。

〈伝える方がいい→伝えない方がいい〉

- ・損をするのは嫌だから、伝えた方がいいと思っていたけれど、正子の気持ちを考えるとどうなのかな。もしかしたら、正子が傷つくかもしれないな。伝えない方がいいのかもしれない。移動させよう。
- ・友達なんだから、伝える方がいいと思っていたけれど、実際自分だったらどうするかと考えたら、友達だとしても言いづらいよな。だとすると、伝えない方に移動しようかな。

— このように働き掛けると【働き掛け3】 —

○発問「なぜ、ネームプレートを移動させたのですか」

○発問「では、正子のためだと考えたら、伝えた方がいいかな、伝えない方がいいかな」

※正子の気持ちに立たせて解決方法を考えさせる。

・指示「ネームプレートを貼りましょう」

○指示「そのように考えた理由を発表してください」

○発問「友達の考えを聞いていて、ネームプレートを動かしたいという人はいますか」

— このようになり (C3) —

○ネームプレートを移動させた理由を発表する。

- ・正子のためを思ったらどうかなと思って考えたら、正子がまた間違うとかわいそうだから伝えた方がいいと思いました。
- ・今までは、ひろ子が迷っている気持ちを考えて、正子に伝えたらどう思われるだろうと思っていました。でも、正子だったらと考えてみたら伝えた方がいいと思います。なぜなら、友達なんだから正子はそのとき嫌な気持ちになったとしても、分かってくれるはずだと思ったからです。
- ・伝えた方がいいと思っていましたが、伝えない方がいいに変わりました。なぜかという、伝えることで正子が傷ついたり嫌な気持ちになるかもしれないと思ったからです。

○正子の気持ちに立って、解決方法を考える。

- ・今度は、正子の気持ちに立って考えてみるのか。

〈伝えた方がいい〉

- ・正子のためだと考えたら、伝えた方がいいと思います。なぜなら、伝えないと正子がまた同じような間違いをするかもしれないからです。友達なんだから、それはかわいそうです。
- ・正子のためなら、これからのためにも伝えた方がいい。間違っていることが分かっているのに、伝えないのは本当の友達とは言えないと思うからです。

〈伝えない方がいい〉

- ・正子のためだと考えても、伝えない方がいいと思います。せっかく、はがきを送ってくれたのに、料金が不足していたよなんて教えたら、正子が傷つくかもしれないからです。もしも、伝えるなら直接会ったときに伝えたいな。

○「正子のため」という見方で、自分が考えた解決方法とその理由を振り返る。

このように働き掛けると【働き掛け4】

○説明「ひろ子は、決められるのでしょうか。続きを読みます」

※資料②が書かれたプリントを配付する。

※資料②を読み聞かせる。

- ・説明「ひろ子は、正子に伝えることにしたようですね」

○発問「決心したひろ子に、何と言ってあげますか。ワークシートに書きましょう」

このようになる (Cn)

○ひろ子が取った行為を知る。

- ・やっぱり伝えることにしたんだね。私も同じように考えたよ。
- ・ぼくは、伝えない方がいいと思っていたんだよな。ひろ子は、伝えることにしたんだね。

○ひろ子が取った行為を知り、決心したひろ子に向けて言葉を書く。

- ・ひろ子、よく決心したね。ひろ子と同じように私も迷ったよ。だって、友達だと分かっていても言いにくいこともあるよね。でも、正子のためを思えば、やっぱり伝えてあげた方がいいかもしれないね。
- ・ひろ子、決心できてすごいよ。私だったら、伝えた方がいいのか、伝えない方がいいのか、なかなか決心がつかないよ。だって、正子のためなら伝えてあげた方がいいと分かっていても実際伝えるとなると言いづらいもの。でも、これからも正子と仲良く友達でいるには隠し事をしないで伝えた方がいいのかも知れないね。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した関係付けるすべを用いて、課題解決に必要な情報と既有事項とを関係付けることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、 のように、関係付けるすべを用いて、既有の道徳的価値と「正子の気持ちを考えたらどうか」という相手のことを大切に思う気持ちとをつないで考えているかを、ワークシートの記述や発言から検証する。
- ② 働き掛け4を受けて、 のように自分の考えとその理由、 のように、相手のことを考えて行為を決めることの大切さに触れている言葉を記述しているかをワークシートで検証する。

※①と②の両方をもって表れありと評価する。